

生物多様性ぐんま戦略進捗状況調査(令和元年度事業) 県の主な取組

基本戦略	県の取組	令和元年度の主な取組状況	今後の方針・課題
1 生物多様性の価値の浸透	環境学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尾瀬学校:群馬の子供たちが一度は尾瀬を訪れ、質の高い自然体験をすることにより自然保護の意識を醸成するとともに、郷土を愛する心を育むことを目的として、小中学校が尾瀬において少人数のグループでガイドを伴った環境学習を実施する場合に補助金を交付した。</li> <li>・県立ぐんま昆虫の森における昆虫等の生育環境創出のための里山整備及び自然観察会等の環境教育プログラムの実施:里山での自然体験を通じて生物多様性への理解を広げるため、自然観察会を16回実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに作成した教材・PR用DVDを活用し、学校の不安を解消し、スムーズに実施できるよう、教職員向け研修会を実施する。ガイドのさらなる質向上などに務めるとともに、尾瀬学校の教育効果を動画配信等を通じてわかりやすく伝える。</li> <li>・引き続き、里山の保全に努めるとともに、自然観察会等のプログラムを積極的に実施する。</li> </ul>
	生物多様性に関する情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境ホームページ(ECOぐんま)の運用:群馬県の環境に関する情報を発信するためのホームページを運用し、県民の環境に対する理解を深めた。また、Twitterを活用し広く情報を拡散した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係各課との連携を一層深め、内容の充実を図る。環境に関する県の施策に加え、県民の取組も積極的に発信していく。</li> </ul>
2 緊急性の高い保全施策の実施	生物多様性の保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希少高山植物群落保全事業:シラネアオイ等の希少高山植物をシカの食害から守るため、地元関係者と保護・復元に取り組みとともに、日光白根山弥陀ヶ池周辺及び七色平に設置した電気柵を保守管理した。</li> <li>・希少蝶類パトロール:県指定天然記念物ヒメギフチョウ等の高山蝶について、盗難防止等を目的としたパトロールを保護団体等と協力して実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シカの食害対策のため設置した電気柵の機能を十分発揮できるように引き続き保守管理を実施していく。</li> <li>・保護団体等により行われている食草増殖・生息調査・除伐等の環境整備等を支援する。</li> </ul>
	鳥獣害対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・捕獲の担い手確保対策:狩猟免許試験の休日開催や地域開催、わな猟の初心者講習会に加え、わな猟免許取得者向けの実践者講習会の実施、10代のわな免許試験手数料減免など、狩猟者の確保対策を実施した。また、狩猟の魅力や情報を発信するため、ぐんま狩猟フェスティバルを開催した。</li> <li>・農作物被害対策:農業者、地域が野生鳥獣による農業被害の軽減を実感できるように、国交付金及び県単事業を活用して、地域が主体となった被害対策の取組を支援した。また、鳥獣被害対策支援センターを中心に、有害鳥獣の計画的な捕獲を推進するとともに、被害対策技術の普及や人材育成、調査研究を進めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・捕獲の新規参入者の確保のため、普及・啓発を強化するとともに、免許取得者の技術向上に努める。</li> <li>・新たな地域で被害が発生してきていることから、市町村の被害防止計画に基づく地域の主体的な取組を支援するとともに、捕獲の一層の強化に取り組むなど、引き続き総合的な対策を実施する。</li> </ul>
	外来生物対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定外来生物対策:クビアカツヤカミキリ対策として、各種講習会の開催、邑楽館林地域における国交付金を活用した対策、ぐんま緑の県民基金事業による市町村への補助、庁内関係所属による連絡会議の設置、隣接県と連携した情報共有体制の構築など各種対策を講じたほか、関東地方知事会議を通じた国への要望を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに指定される特定外来生物に留意し、引き続き特定外来生物についての周知を図る。特にクビアカツヤカミキリについては、「予防対策事業」「防除対策技能向上事業」「県有施設防除対策事業」の新規事業に取り組むことで、被害の拡大防止を図りながら県民への周知啓発に努める。</li> </ul>
	生物多様性を保全するための基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に配慮した河川改修:河川幅を十分確保するなど、河川が有している自然の復元力を活用できるように配慮した事業を実施した。また、周囲と調和した明度・彩度・テクスチャーを有する素材の護岸の選定や、コンクリート護岸を土砂により覆うことで景観にも配慮した。令和元年度台風19号に係る災害復旧事業についても同様に景観に配慮して事業を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、環境に配慮した河川改修を推進し、護岸に配慮するだけでなく、河道計画や河岸・水際部の設計についても環境上の機能を確保し、生物の成育、生息、繁殖環境の保全に努める。</li> </ul>
	里山・平地林・里の水辺の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぐんま緑の県民基金市町村提案型事業:野生獣の出没抑制など、地域の安心・安全な生活環境の改善を図るため、里山40ha、竹林26haの整備に支援した。</li> <li>・多々良沼・城沼における自然環境の再生・保全活動:多々良沼公園における自然再生・保全に向け、植物・水質等のモニタリング調査や外来種駆除を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里山・平地林等の森林環境を改善し、安全・安心な生活環境を創造するため、引き続き支援する。また、今後も事業を活用してもらうよう周知する。</li> <li>・自然再生の取組は、継続的に実施することが重要であるため、今後も自然再生協議会の構成団体と連携を図りながら事業を推進する。</li> </ul>
3 生物多様性の持続可能な利用の推進	生物多様性の持続可能な利用のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芳ヶ平湿地群ワイズユース促進:芳ヶ平湿地群で環境学習を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「尾瀬学校」の見直し検討と併せ、「芳ヶ平湿地群環境学習」についても、今後のあり方について検討が必要。</li> </ul>
	地域資源を活かした観光地の魅力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千客万来支援:集客力の高いワンランク上の魅力ある観光地域を実現し、多くのリピーター(常連客)を獲得するため、地域との連携のもとに市町村や民間団体がマーケティングに基づき取り組む企画の優れたハード・ソフトの観光振興施策・事業に対し65件の支援をした。</li> <li>・文化財の保護:特別天然記念物の浅間山溶岩樹型の保全事業への随伴補助を行った。また、連取のマツ・萩原の大笠マツの保護養生事業等、県指定天然記念物8件について補助事業を実施した。さらに、歴史文化基本構想・歴史的風致維持向上計画やジオパーク事業を通じた、天然記念物を活用した地域の魅力創造を支援した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・群馬県境稜線トレイル全線開通による周辺整備、上野三碑やみなかみユネスコエコパークのユネスコ登録など観光をとりまく環境は変化しており、観光が地域経済を担う役割が大きくなっている。2020年のDC、東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて外国人観光客誘致の取組、観光のバリアフリー化への需要が高まることから、観光客の受け入れ体制整備を推進していく必要がある。</li> <li>・名勝・天然記念物を活かした地域の魅力向上及び集客力の強化に係る市町村事業に対し、適切な支援をする。</li> </ul>
4 生物多様性に関する情報の蓄積と利用環境整備	生物多様性に関する情報の蓄積	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良好な自然環境を有する地域学術調査:県内の自然環境の保全のために講ずべき施策の策定に必要な基礎情報の収集を目的に、「良好な自然環境を有する地域学術調査」を群馬県自然環境調査研究会に委託して実施した。また、通常の調査報告書とは別に、平成26年度から平成29年度にかけて武尊山周辺で実施した調査の報告書を取りまとめた。</li> <li>・自然史調査:みなかみの「自然史調査」5年計画の3年目の取り組みを行った。昨年度行った状況調査をもとに、各分野ごとに計画的な現地調査、資料収集を行った。また、みなかみ町を中心に行われる「みなかみBR生物多様性調査」に参加し、みなかみ町、日本自然保護協会との連携で行う調査のデータも活用していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学術調査によるデータの蓄積は、施策の策定に必要な基礎情報として重要であり、今後も地道な調査活動を継続する。</li> <li>・対象地域が広いと、範囲を絞り、効率的な調査活動が行えるよう改善を行う。調査の中間発表については継続して、冬の特別展「ぐんまの自然のいま」でその成果を公表していく。「みなかみBR生物多様性調査」は3年計画の1年目として、他団体との連携を取りながら活動を始め、自然史調査と共にデータの蓄積を行う。</li> </ul>
	情報の適正な利用環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絶滅危惧動植物の保全対策:群馬県レッドデータブック改訂版掲載種のうち早急な保護対策が望まれる199種が県が行う公共工事予定地で確認された場合に、専門家による現地調査や講ずべき保護対策を検討した。令和元年度照会実績は488件。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種調査で得られた情報を群馬県GISに反映し、最新の情報のもと希少野生動物植物種の保護対策を進める。</li> </ul>
5 戦略を着実に推進させる仕組みづくり	生物多様性を担う団体の活動促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境アドバイザーの登録、支援、活躍:定期的な活動を通して、アドバイザーの環境保全意識の向上を図った。また、群馬県環境アドバイザー連絡協議会では、「みんなのゴミ減量フォーラム」により、環境活動を盛り上げた。</li> <li>・環境サポートセンターの運営:環境学習・環境活動の総合窓口として、動く環境教室の実施、環境学習資料の作成、環境活動団体の情報収集及び提供、環境アドバイザー連絡協議会事務局、こどもエコクラブ群馬県事務局等の役割を果たした。こども向けの地域環境学習や動く環境教室の増加により、利用者数は前年比で大幅に増加した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境アドバイザー制度は3年を登録期間としており、令和3年度から第12期として、新たな登録期間を開始する。また、ぐんま環境学校(エコカレッジ)の修了生や、県内で開催される環境イベント等で本制度をPRし、人材確保に努めるとともに、現在登録しているアドバイザーへは研修を行い、県が進める各施策との連携強化を積極的に行うなど、各アドバイザーが各地域で自主的に活動しやすい土台作りを行う。</li> <li>・県事業や環境アドバイザーの活動をさらにPRするため、環境ホームページ(ECOぐんま)の掲載頻度を上げ、情報発信を強化した。Twitterも活用し、環境森林部内での環境学習の拠点とするため、情報の集約や外部への発信を引き続き行う。</li> </ul>
	各団体の連携の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林ボランティア等推進:森林ボランティア支援センターを運営し、専用HP・メルマガ・情報誌による情報発信、新規加入を促進するボランティア体験会、安全講習会、作業器具の貸出し等を行い、森林ボランティア活動を支援した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民自らが森林や林業に関心を持ち、森林の必要性について理解を深めることが重要であることから、森林ボランティアに取り組む団体や活動機会を求めている県民等への支援を行い、本県の森林整備、保全につなげていく必要がある。</li> </ul>